

私が思う建設産業の魅力：「アルバムの1ページをつくる建設産業」

建設産業の魅力、幼い頃の私は、施設や交通整備をつくっている所と答える反面、3K(きつい・汚い・危険)があり、あまり興味を持たない業界でした。しかし工業高校に入り、知らなかった魅力に気づくことになります。

私が工業高校の土木科に入学したのは、デザインに興味があったからです。なぜかという、私が印象強く覚えていることに、祖母との最後の旅行で、テーマパークや飲食店を楽しんだという思い出があります。だから、建設産業がなかったらその思い出はつくれなかった事になります。その建設物もただ建設するだけではなく、使用する人の年齢に合わせた造りだったり、見る人がいつまでも記憶に残るようなデザインだったりするところがとても良いなと気付きました。だから、建設産業について知りたいと思い、受験しました。

今年、私は建設産業の魅力について考える機会が2つありました。

1つは、コロナの影響があり ZOOM での開催となった熊本県建設企業魅力発見フェアです。建設業界は男性が多く、iPad を使った対面と聞き、少し抵抗感がありました。しかし、ある企業の担当をされた方は、年齢が離れていたものとても話しやすい方でした。更にその企業は「女性だけで現場をつくる。」という目標を掲げ、女性に任せている仕事には何があるか、どんな福利厚生があるのかを話していただきました。「女性が働きやすい職場。」これが新しく知った1つ目の魅力です。

2つは、玉名市内の高校の生徒が集まり、市長とこれからの総合計画を考えるワークショップに参加した時のことです。そこで聞いたのは、地方では高齢化により空き家が増え、海外からの研修生が増える一方、その地域で育った若者が都市へ出て行っているという現状でした。この現状を変えるにはどうしたらいいか、私たちは「SDGs」を理解してから考えてみました。その中で多く出されたのが、若者が集まるような施設の建設でした。これができるれば、観光客・住みたいと思う人が増え、全てが循環していくのではないかと。そしてそれらを作り上げるに当たって重要になってくるのが「建設産業」だと。皆がその考えを発表している時、私は、土木を学んでいてよかったなと誇らしげに感じました。まちをつくりあげ発展させる。それが2つ目の魅力です。

将来私は、少年院で矯正心理の仕事をしたいと考えています。「建設産業と全く関係ないよね。」と何人もの人に言われました。しかし、少年院を出た人が就職場所に選ぶのは建設業界が多いと聞き、高校三年間で学んだことは無駄にならず、入所者の方々にアドバイスができ、これらの魅力を伝えることができるのではないかと考えています。

建設産業の一番の魅力・・・それは、人々の人生や街をつくる場所ではないでしょうか。将来、誰かのアルバムの1ページの作成に携わりたいです。

建築産業でやりたいこと：「暮らしを守り、そして豊かに」

「人々の暮らしを守り、豊かなものにする！」

私が将来、建設産業でやりたいことです。人々の暮らしを守るには、誰もが安心して、そして安全に生活できる空間が大切だと考えました。

私の家は、段差が多く高低差もあります。そのため、祖母は、段差を上がることが大変そうでした。手すりも少なく手を貸したり、支えたりすることもありました。家族は、祖母が怪我をしてしまうのではないかと心配していました。また、母は、洗濯かごを持ち階段を下りていると足を踏み外し落ちてしまいました。幸い怪我はなかったものの、とても心配したことを覚えています。誰もが安心して生活できる空間にも関わらず、常に祖母や母の心配をし、心から安心して生活をしているとは言えませんでした。

また、日本は、地震や洪水の被害を度々受けています。私は、熊本地震を経験しました。県内は、甚大な被害を受け、暮らしを守る家屋には戻れず、車中泊や避難所での生活を余儀なくされる方々がたくさんいました。この経験から、自然災害に強い住宅をこの手で作りたいと思うようになりました。

工業高校に入学後、構造力学や安全管理について学ぶ中で、階段は狭いことで足場が見えにくくなったこと、地震のメカニズム、耐震構造などの専門的な見識を身につけ、過去の疑問を解決することができました。これらの経験から、ますます将来、建設産業に携わりたい気持ちが強くなりました。

次に、豊かな生活に繋がるコミュニティについてです。これができること、より安心・安全な生活に繋がると考えたからです。災害時、初期対応は、住民一人一人が協力をして対処しなければなりません。そのためには、普段から地域住民同士の交流を深め、信頼関係を築くことが重要です。そのために、街やマンション等でのイベントが有効だと考えます。内容は、運動・バーベキュー、ゲーム大会等の老若男女問わず楽しめるものが良いと思います。しかし、そのためには地域住民の共有スペースが必要です。それを、構築できるのは建設業であり、それが実現できれば、人々の暮らしをソフト・ハード両面で、より豊かなものにできると思います。

このように、建設業には、現代が抱える問題を解決することができたり、地域の魅力の向上や可能性を伸ばすことができる手助けができるのではないかと私は思います。

「人々の暮らしを守り、豊かなものにする」

この目標を胸に勉学に励み、将来は地域の発展に貢献できるような人材になりたいと考えています。